

日本地球電気磁気学会会報(第82号)

1979年6月28日

日本地球電気磁気学会

連絡先 東京都文京区弥生2丁目11の16

東京大学理学部地球物理学教室内

電話 03-812-2111(内線6476)

I 第65回総会ならびに講演会

第65回総会ならびに講演会は、5月15日～18日の4日間、東京大学宇宙航空研究所のお世話により、開かれました。17日午後には、平川浩正氏(東大理)による「重力波の話」についての特別講演の後、斎藤尚生会員を議長として、下記のような次第で総会が開かれました。

- (1) 開会の辞 (河島運営委員)
- (2) 議長選出 (斎藤会員)
- (3) 大会委員長挨拶 (平尾会員)
- (4) 運営委員会報告 (小川運営委員)
- (5) 田中館賞授与

第78号 江尻全機会員

磁気圏内の高エネルギー粒子変動

- (6) 田中館賞審査報告
- (7) 学会委員長挨拶
- (8) 議事

- (イ) 昭和53年度決算
- (ロ) 昭和54年度予算

(イ), (ロ)について、小川運営委員より説明があり、原案通り承認されました。

- (ハ) 次期開催地(島根)の確認

議長より昨年秋の総会で提案された通り島根での開催を確認したいとの発言があり、多数の参加をお待ちするとの返事が浅海会員よりあった。

- (ニ) 次々期(55年春)開催地の提案

議長より、第84回総会および講演会の開催地に関する発言に対して、力武会員より来年5月初め東工大でお世話頂けるとの申し出があった。

(8) 会誌名問題について

学会誌（J. G. G.）の名称変更問題に関して、多くの有益な討論がなされたが、結論を得るにいたらなかった。今後のこの問題の進め方に関しては、運営委員会に一任され、検討することとなった。

(9) 謝 辞

参加者を代表して、力武会員から、今回の総会と講演会をお世話下さった東大宇宙航空研究所の方々に謝辞が述べられました。

(10) 閉会の辞（議長）

II 新入会員

前号（81号）会報記載後、下記の方々が入会され国内会員総数487名（正会員433，学生会員51，名誉会員3）となりました。

八木禎一郎（金沢大），栗木計起（中部工大），町田 忍（宇宙研，学生），早川 基（宇宙研，学生），羽田 亨（宇宙研，学生），池田 慎（宇宙研，学生），馬島直哉（電通大，学生）

III 昭和53年度決算および昭和54年度予算

総会で承認された決算と予算は下表の通りです。

昭和53年度決算

収 入 の 部		支 出 の 部	
正会員会費	1,702,084	業務委託費	700,760
学生会員会費	125,000	会誌分担金	4,090,000
出版助成金	3,690,000	会誌発送費	163,100
予稿集売上金	747,000	印刷費	169,500
利 息	166,083	通信郵送費	237,370
繰 越 金	3,585,709	大会費	384,269
		予稿集印刷費	597,850
		会 合 費	65,700
		会員名簿作成費	398,000
		雑 費	15,300
		繰 越 金	3,194,027
合 計	10,015,876	合 計	10,015,876

54年度予算案

収入の部		支出の部	
正会員会費	2,604,000	業務委託費	810,000
学生会員会費	180,000	会誌分担金	4,540,000
出版助成金*	4,140,000	会誌発送費	200,000
予稿集売上金	750,000	印刷費	170,000
利息	170,000	通信郵送費	250,000
繰越金	3,194,027	大会費	400,000
		予稿集印刷費	650,000
		会合費	50,000
		雑費	15,000
		繰越金	3,953,027
合計	11,038,027	合計	11,038,027

IV 田中館賞審査報告

委員長 加藤 進

論文名 磁気圏内の高エネルギー粒子変動

著者 江尻全機

本論文は磁気圏内の高エネルギー粒子(1-1000keV)のスペクトルの変動に関する研究を述べたもので下記の二点から成っている。

- (1) Explorer 45 科学衛星によって得られた1-1000keVのエネルギーを持つ粒子(イオン)群のスペクトル解析を克明に行つて、スペクトルの時間的(地方時、およびストーム時)空間的変動を初めて明らかにした。特にプラズマポーズとスペクトルのNose構造の関連を解明した。
- (2) 以上のデータ解析結果を説明する理論的研究を行つた。すなわち、従来用いられている様な磁気圏電場モデルを一步進めて、非一様な静電磁場を導入しこの影響下の粒子の運動を計算し、朝方、夕方のプラズマポーズ内外での粒子エネルギースペクトルのNose構造の違いを説明した他、低エネルギー粒子群のつくるプラズマポーズに対応する高エネルギー粒子群の侵入

域の形状が、Mc Ilwain の観測した Injection Boundary と一致することを示した。またこの計算において粒子の運動を特徴づける折返線 (Injection line) の理論的発見をしている。この計算は精度において従来の同種の計算に比して一桁高く、計算法が変化する電場にも適用できるので、サブストーム時の粒子運動の計算に他の研究者によっても広く用いられている。以上の成果は田中館賞に値するすぐれたものである。

V 会誌名 学会名問題に寄せて

委員長 加藤 進

私はこの度、第 10 期の本学会の委員長に選ばれました。1947 年 (昭和 22 年) に創設されたこの学会は、既に 30 年余の歴史を持つことになり、会員数も 500 名に達しました。学会講演数も増加し、今や 4 日間にわたる開催となり、ポスターセッションが前回より新たに加わりました。

この学会の対象分野は大きく分けて、固体地球と気体地球のうちの上層、いわゆる超高層から成っています。学問の発展に伴って、この両分野の分極が増してきたのは明らかです。しかし一方では、地球物理学の分野、または天文学、地質学とも関連を持つ、学際的な研究活動も行っており、この学会の枠を越えた広い活躍をなさっている会員も多数おられます。また上記両分野を含む総合的研究もあります。

この学会が深く関連をもつ国際協同観測事業は現在二つあります。これ等は GDP (Geodynamic Project, 地球内部ダイナミクス計画) と IMS (International Magnetospheric Study, 国際磁気圏観測計画) ですが、前者では固体地球分野の会員が、後者では超高層分野の会員が中心的に活躍し、成果を挙げておられる由です。また、近い将来の計画としては超高層関係に MAP (Middle Atmosphere Program, 中層大気国際協同観測計画) があります。その他、この学会の会員が中心となって、「太陽系の進化と惑星環境の研究」という文部省科学研究費特定研究が申請されております。上記、GDP と IMS は固体地球、超高層の各分野の最先端にあり、両分野分極の限界と云えると同時に、広く他分野とつながりを持つものでもあります。また上記特定研究には固体地球と超高層の両分野を含めた総合化がみられます。

この様な多面的発展の現段階で、学会誌名、学会名の見直しが問われるのは蓋し当然なことでしょう。小さいながら、この学会は今日まで輝かしい発展の歴史を築いて来ました。この歴史を否定するのではなく否、この歴史の上に、より輝かしい新しい未来を築いてゆくために、会誌名、学会名問題を真剣に考えることを会員の皆様に御願います。

Ⅵ その他

(1) 会員名簿訂正

11 ページ下から2行目に誤りがありました。ご迷惑をおかけしたことをお詫びして訂正します。

誤 谷口 武 名大理
正 中山 武 東京高専46

(2) 第6回レーザ，レーダ（ライダー）シンポジウムのお知らせ

開催期日 昭和54年11月8，9日

場 所 ホテル伊豆高原

〒413-02 静岡県伊東市池893-176

TEL 0557（伊東）53-1155（代）

発表申込〆切 昭和54年8月20日

内 容 広い意味でのレーザ計測をも含め，日ごろの研究成果や将来計画について

発表・参加 〒188 東京都田無市向台町5-4-1

申 込 先 電子技術総合研究所

電波電子部 レーザ研究室 柏 木 寛

TEL 0424-61-2141（内560）

(3) 第23回宇宙科学技術連合講演会のお知らせ

開催日時 昭和54年10月25日（木），26日（金）

会 場 航空宇宙技術研究所

東京都調布市深大寺町1880

内 容 宇宙科学および宇宙技術に関する研究であって，すでに発表されているものであってもさしつかえないが，最近の研究に属するものが望ましい。他分野，隣接領域との関連を念頭において発表することを期待する。

問 合 せ 先 日本航空宇宙学会「第23回宇宙科学技術連合講演会」係

〒105 東京都港区新橋1-18-2

航空会館分館 TEL (03)501-0463

(4) 第11回岩石磁気・古地磁気研究会のお知らせ

開催日時 昭和54年7月18日～20日

場 所 文部省共済組合 乗鞍高原「あずみ荘」

内 容 ◦造岩強磁性鉱物の酸化とその磁氣的性質
◦堆積残留磁化獲得機構
◦その他

問合せ先 〒390 松本市旭3-1-1

信州大学理学部地質学教室 百瀬寛一, 井上喜嗣

TEL 0263-35-4600 内4165

IUGG Canberra Assembly出席希望者に

オーストラリアの組織委員会では、9月1日までに各参加者が登録するよう要請しています。

Registration form がついているSecond circular (1979年2月発行)をお持ちでない方にはコピーを差し上げますからそれを用いて登録をすませて下さい。

福島 直(東大地物研)